

平成24年11月15日

## 政策提言書

白杵市長 中野 五郎 殿

白杵市水資源調査特別委員会において、これまでの議論を踏まえ、水資源の確保に向けた事業展開について、別紙のとおり政策提言します。

白 杵 市 議 会 議 長 吉 岡 勲

白杵市水資源調査特別委員会委員長 大 嶋 薫

# 「水資源」確保に向けた事業展開に関する提言

## 〔趣 旨〕

近年、地球規模で環境が変化し大地震、津波、異常気象による局地的な災害が頻発しています。本市においても、このような状況を踏まえ、万一の備えに努めているところですが、災害にも強く、日常においても安心安全な社会基盤を整備していくことが行政の基本的役割であります。

このような中、本市では一昨年から昨年にかけて、少雨による深刻な飲料・農業用水等の不足が発生しました。市議会ではこの事案をきっかけに「水資源」問題への関心が高まり、平成23年6月には任意の部会を立ち上げ、調査研究を進めてきました。

調査研究を進めるにつれ、環境変化に伴う水質悪化の不安、林業衰退による水源の減少、里山の荒廃などなど、「水資源」にかかる深刻な問題が次第に浮き彫りになり、このまま推移すれば、さらに水質、水量の悪化が懸念され、市民生活の根幹を揺るがしかねない最重要課題ととらえたところであります。そのため、本年9月議会において、「臼杵市水資源調査特別委員会」を設置し、これまでの任意活動の成果も踏まえ、調査研究を重ねてきたところであります。

その結果、本市の「水資源」を損なうことなく次世代に引き継ぎ、将来にわたり良質な水を安定的に利用可能な状態に保ち続けるためには、水源涵養や浄化作用をはじめ、国土保全、獣害対策等の多面的機能を持つ森林の環境を保全・再生することが最も有効かつ効果的であり、これに着手し、継続的に取り組む必要があるとの「中間まとめ」を行ったところであります。

担い手不足や森林所有者の高齢化による人手不足、周辺部の過疎化、さらには木材価格下落による資金不足などの森林を取り巻く厳しい現状は、不十分な森林管理や竹林の浸食による森林、里山の荒廃を生んでいます。森林や里山の再生は、すなわち、「水資源」の確保につながり、豊かな地域づくりにつながるものであります。

しかしながら、森林再生の取り組みは、一朝一夕に、また個々人の力でただちに改善が図れるものではありません。ついては、行政、林業関係者、諸団体が連携し、市民を挙げて取り組むことが必要であります。

以上のことから、臼杵市議会では、以下のとおり、「水資源」確保に向けた事業展開に関する提言を行うものであります。

## 〔提 言〕

- 一、里山や森林を再生するため、地域・企業・森林ボランティア等が協働し、市民挙げて取り組む事業を早急に着手するとともに、市民が水資源対策の重要性を共有するよう周知を図ること。
- 一、放置竹林が増加、拡大し、里山、山林や自然環境を荒廃している現状を鑑み、竹林整備事業を行うこと。